＊＊＊広報 PJ からのお願い＊＊＊

『おおさか剣道かわら版』についてのご意見、ご感想をお待ちしています。ご所属、お名前を記載の上、以下のメールアドレスまで投稿ください。

info-shinsa◆osa-kendo.or.jp

上記メールアドレスは◆を@に変更後お使い下さい

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

令和 6 年の 7 月号から、掲載されている記事ごとに１ いいね　２ いまいちだね　の選択投稿ができるようになりました。非常に簡単ですので多数のアクセスをお待ちしております。

PC の方は下記 URL へ（スマホも可）

https://forms.gle/KHUVSEgWyoW2XgM49

スマホの方は、下記 QR コードからアクセスできます。

従来のようにメールを利用されてもかまいません。

よろしくお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

おおさか剣道かわら版（広報誌５月号）をお届けします。内容は以下のようになっております。詳細は下記令和 7 年５月号を参照ください。

・「剣道文化講演会グッドコーチング ～新しい時代に求められる指導法～」のご紹介

上記講演会が、2 月 8 日 、大阪府立労働センター（エル・おおさか）にて開催されました。今年度は、長年オリンピックやプロスポーツ界でメンタルコーチを担当している、土屋裕睦先生にご講演頂きました。　（土屋裕睦 大阪体育大学スポーツ科学部教授）

・第 29 回「大阪武道祭」のご紹介

R7 年 2 月 11 日（祝）、大阪市中央体育館(Asue アリーナ)で大阪府の 8 武道団体（弓道・柔道・日本拳法・空手・銃剣道・少林寺拳法・なぎなた・剣道）の祭典が開催されました　（かわら版WGグループ）

・「海外事情シリーズ ～モザンビーク編 その１～」 のご紹介

「海外から見た日本の剣道」をテーマに原点回帰してみようというシリーズです。

今回はモザンビークの青年海外協力隊・松下賢宣さんからのお便りです。

（松下賢宣立 青年海外協力隊 命館大学剣道部 OB）

・「道場自慢」シリーズのご紹介

「今回お訪ねしたのは、令和 6 年度「生涯現役スポーツ賞の団体賞」に輝いた 若竹会会長の倉都先生にお話を伺いました。　（倉都滋之 若竹会 会長）

第 23 号
おおさか剣道かわら版
剣道・居合道・杖道大好き！ みんなの情報誌です！

Vol.039
2025. 5. 1 発行

発行責任者
公益社団法人
大阪府剣道連盟
広報 Pj

令和６年度 剣道文化講演会
令和７年２月８日、大阪府立労働センター（エル・おおさか）において開催
「実践！グッドコーチング ～新しい時代に求められる指導法～」

標記講演会が、2 月 8 日、大阪府立労働センター（エル・おおさか）にて開催されました。今年度は、「実践！グッドコーチング ～新しい時代に求められる指導法～」と題し、長年オリンピックやプロスポーツ界でメンタルコーチを担当されている、土屋裕睦（つちやひろのぶ）大阪体育大学スポーツ科学部教授（公認心理師、スポーツメンタルトレーニング上級指導士、剣道教士七段）からご講演いただきました。

●土屋先生ご講演（要旨）

今回のテーマ「コーチング」の新たな潮流は「NO！スポハラ（スポーツにおけるハラスメント）」。これは、2012 年にスポーツ界が直面した危機、すなわち高校バスケット部員の自死や、柔道女子ナショナルチームでのハラスメントを契機とした指導者の暴力問題を契機としている。ひと昔前、稽古では竹刀で頭や身体を叩く、大きな声で怒鳴る、試合で負けたと言っては罰として掛かり稽古といった光景がよく見られた。しかし、先の暴力問題を受けて、2013 年 4 月には「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」が発せられ、指導者をとりまく環境が大きく変化している時代となっている。そこから 10 年を経て始まった「NO！スポハラ」活動は、日本スポーツ協会や日本オリンピック委員会といった団体だけでなく、中学校や高等学校体育連盟までもが名を連ねており、すべてのスポーツ指導者たる人がもはや知らなかったではすまされないものとなっている。

その背景には、指導中の体罰や暴言といったスポハラが未だなくなっていない現状がある。それはなぜか。体罰や暴言にはすぐに選手の行動を変える効果があり、指導者や親にとって“お手軽”な指導方法であるからだ。いわば動物を調教するために使われる方法を、子どものスポーツ指導、ましてや剣道の指導で用いて良いのか、それほど無能な指導者なのか、指導者としてのあり方が問われている。

では、指導者はどうすればいいのか。「NO！スポハラ」活動の理念は、「誰もが安全に、安心してスポーツを楽しめる社会を作る」ことであり、指導を受ける選手はもとより、保護者や関係者の「誰もが」安全安心な環境でなければならない。そのためには、選手の意思や人権が尊重されているか、世代や性別、競技レベルに応じた指導か、周りの人から指導についての説明を求められれば適切に説明できるか、納得してもらえるかといった視点を常に持つ必要がある。

具体的な指導にあたっては、選手の主体性を尊重することが重要となる。そのためには、プレーヤーズ・センタード、すなわち選手に自己決定の機会を多く与えること、指導にあたっては、指示ではなく「質問」を多くすることが有用となる。簡単な例を挙げると、「素振り 100 本！」と言えば「指示」になるが、「今日は素振り何本頑張ってみる？」と聞けば、「質問」になる。選手に問いかけ、自己決定を促せば、選手の自主性・主体性が育まれ、結果として選手自身が一所懸命に取り組むことにつながる。良き指導者は良い質問をする、その結果、「選手の心に火をつける」ことがグッドコーチの役割である。

私たち指導者は学ぶことをやめたら教えることはできないと言われるが、師弟同行、剣道の指導者は常にそれを実践してきたはずである。講演では、グッドコーチングを実践することは、スポハラの予防のみならず、指導者自身が成長することにつながると締めくくられた。

本日の講演内容は、特に若年層の指導に励む方々にとっては大いに参考になったものと考えています。改めて、講師を務めていただきました土屋裕睦先生に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

（大阪府剣道連盟総務委員　新階寛仁）

第 29 回「大阪武道祭」　コロナ禍以来 5 年振りに開催！！

R7 年 2 月 11 日(祝)、大阪市中央体育館(Asue アリーナ)で大阪府の 8 武道団体
(弓道・柔道・日本拳法・空手・銃剣道・少林寺拳法・なぎなた・剣道)の祭典が開催されました
各武道のミニ体験教室もあり、みんなが楽しめるお祭りになりました＼(^θ^)／

大阪府剣道連盟からの出場者を紹介します。

＜剣道＞　パナソニック杯 第 19 回全日本都道府県
少年剣道優勝大会 小学生の部 代表選手

塩川剛成(小６) 北東大輝(小５) 岡垣誠太郎(小６)
大前涼資(小６) 桂木綱大(小６) 小西希龍(小６)
神田虎太郎(小６) 赤尾駿(小５) 濱口幹大(小６)
廣永颯介(小６) 山本実南(小６) 待寺和真(小５)
指導：剣道教士七段　角谷 豊

古武道の剣術のうち江戸時代後期に防具着用の竹刀稽古（撃剣）を直接の起源とする。江戸時代末期には流派を超えて広く試合が行われ、明治時代以降は大日本武徳会が試合規則を定め競技として成立した。太平洋戦争以後は全日本剣道連盟が事業を継承している。現代の剣道は事実上スポーツにも分類されるが、全日本剣道連盟は、稽古により心身を鍛錬し人間形成を目指す「武道」としている。

＜居合道＞　無双直伝英信流 居合道形
打太刀　教士七段　綿谷 尚久
仕太刀　教士七段　吉田 潤

江戸時代に長谷川英信が開いた武術の流派で、土佐および信州で継承され、長谷川英信流ともいわれています。さまざまな流派名が名乗られていましたが、1668 年に発行した伝書に無双直伝英信流の名が見られることから、すでに古くからこの流名であったことが確認されており、幾つもの分派があったと思われます。明治以降残った二派を大江正路の門人達は谷村派、下村派と呼んでいました。

＜居合道＞　無双直伝英信流　詰合之位
打太刀　教士七段　三木 幸代
仕太刀　教士七段　川口 伊都子

無双直伝英信流、詰合の位について、流祖より伝わった奥伝であり、極意であるから確実に稽古すべきとされています。形を演じるにあたり、十分に真剣対敵の気合をこめ、寸分の油断なく一呼吸居合の法則に従い確実に演錬すべきで、気合充実せず精神慎重を欠かせば、単なる舞踏となります。

＜神道夢想流杖道＞　全日本剣道連盟杖道
打太刀　教士七段　下谷 光生
仕　杖　教士七段　大島谷 仁

江戸時代初期の武術家・夢想権之助が創始した神道夢想流杖術をベースに、昭和 43 年、全日本剣道連盟において制定されました。使用する武器は長さ 128cm の樫の丸棒(杖)で、太刀・槍・薙刀等の技を取り入れた総合武道です。権之助は宮本武蔵に剣で立会い敗れた後、研究を重ね杖術を編み出し武蔵との立合いに勝利したと伝えられています。

＜一心流　鎖鎌術＞
打 教士七段　古谷 重勝
仕 教士八段　服部 知司

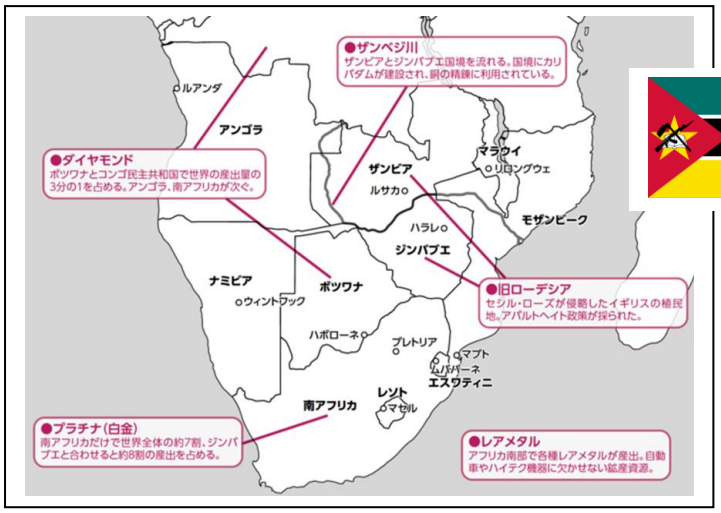
両刃の鎌と分銅を鎖で結んだ「鎖鎌」を用い、斬り込んでくる太刀に対して、鎖を巻き付けたり、鎌で斬ったり、分銅を投げたりして応じる表技 12 本、裏技 12 本が伝えられています。遠祖は念流の始祖・慈恩とも言われています。

海外事情シリーズ ～モザンビーク編 その1～

「海外から見た日本の剣道」をテーマに原点回帰してみようというシリーズです。
今回はモザンビークの青年海外協力隊・松下賢宣さん（立命館大学剣道部 OB）からのお便り
「アフリカン剣道泣き笑い奮戦記」です。皆さんからの持ち込み企画、大歓迎です！

皆さんは「モザンビーク」という国をご存じでしょうか？

この国はアフリカ大陸南東部のインド洋岸に位置しマダガスカルの対岸にあります。面積約 80 万平方キロメートル（日本の 2 倍）の国土に約 3300 万人が暮らしています。「世界の最貧国の一つ」と言われながら、豊かな資源を背景に 21 世紀になって大きく成長している若い国です。



この度 国際協力機構（JICA）の剣道・居合道の指導者としてこの国に赴任しました。

今回から現地からの記事をレポートさせていただきます。まず、その前に少しモザンビークの事を紹介しましょう。

モザンビークは元々ポルトガルの植民地だったのですが、1975 年に念願の独立を果たしました。しかしその後まもなく内戦が勃発し、1990 年代前半になってようやく戦火が収まり現在に至ります。

首都マプト市の
コロニィアル調の風景

近代的な高層ビルも

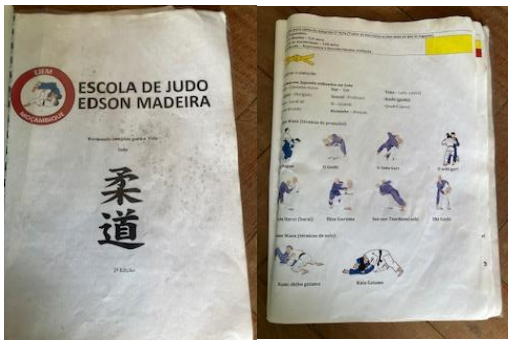
距離的にも文化的にも遠い国ですが、意外なところで日本と関係の深い国です。主な産業は農業で、胡麻を日本に輸出しており皆さんの食卓の胡麻や胡麻油の原料はモザンビーク産かもしれません。

また良質な砂糖キビを生産しており、これを甘味原料にした「世界中で一番美味しいコカ・コーラを生産する国」として有名です。それから鉱物資源にも恵まれ、近年天然ガス田が発見されています。これから日本へも輸出される予定で、一昨年 5 月に岸田総理が当地を訪れニュシ大統領と首脳会談を実施しています。

逆に日本からは中古車が輸入され市中の車の約 70%は日本の中古車が走っており、中には「～旅館」「～学園」といった看板が書かれたミニバスが走っていて思わず苦笑いをするほどです。

多くの日本の中古車が
活躍しています

日本の武道では柔道や空手がとても盛んで、専門の教室が数多くあります。ここではモザンビーク人自身が指導者として子供達を指導しています。我々が使っている体育館でも、黒人のアグジャ先生が週の夜は子供達を、そして土曜は早朝から大人達を指導していて、その熱心さには頭が下がります。



ポルトガル語の柔道の教本

日本の武道は我々の想像以上に世界に拡がっています。

そんな遠いアフリカの地で剣道と居合道に励む仲間がいます。日本では考えられない厳しい練習環境ですが、皆頑張って稽古に励んでおります。

次回から
「アフリカン剣道の泣き笑いの奮戦記」
をお伝えします

「道場自慢」シリーズ

道場には、その歴史の中で、その精神や指導理念が先輩から後輩へと脈々と引き継がれることにより、その道場ならではの伝統が培われて行っております。今回お訪ねしたのは、令和６年度「生涯現役スポーツ賞の団体賞」に輝いた 若竹会。会長の倉都滋之さんにお話を伺いました。

1. 若竹会 ご紹介

若竹会は、立命館大学剣道部の OB 数名が昭和 55 年に当時阪急電鉄十三駅の近隣にあった阪急電鉄剣道部の道場において稽古をさせていただく中で創設され、今年で創立 45 年目を迎えました。会の名称は、立命館大学体育会剣道部 OB・OG 会が若竹会であることに由来しています。その後、出身校や職業、地域の枠を越えて様々な剣道愛好者が参加することとなり，十三の道場が閉鎖された後も稽古場所を中央区や阿倍野区西田辺の道場と変えながら、10 年ほど前より浪速区にある株式会社クボタ本社の剣道場「尚志館」をお借りして稽古会を継続しています。

写真1：現在の若竹会メンバー
（2025.3.12 難波クボタ本社体育館で）

2. 活動内容

現在会員数は 44 名、佐藤誠先生（教士八段）を師範にお招きして、年齢は 24 歳から 85 歳で平均年齢 70 歳の剣士（写真 1）が毎週水曜日に午後 6 時 30 分より約 1 時間程度、基本稽古と地稽古を行っています。御多分にもれず、当会も高齢化の波が押し寄せてきてはおりますが、メンバーの皆さんは本当にお元気で、夏のうだるような暑い中また凍えるような冬の寒さの中でも休むことなく参加され、しっかりと大きな声を出しながら気合を込めて稽古に励んでいます。コロナ前までは、毎年 6 月に行われる西日本勤労者剣道大会に 4～5 チームを編成して 30 年間ほど続けて参加していました。ご存じの方もおられるとは思いますが、一般の剣道愛好家だけでなく、四国や中国地方の県警や教員チーム、また関西や九州の強豪実業団チームなども参加する歴史ある大会で、ベスト 16 に入ったこともありました。（写真 2）

写真2：西日本勤労者剣道大会に出場して
（1990.6 高知県立県民体育館前で）

しかし最も印象に残っているのは、ある年に大会参加中最高齢者チーム（平均年齢 70 歳台後半だったと記憶しています）として若竹会の先輩方が高知新聞のインタビューを受けておられたお姿です。すでに鬼籍に入られた先輩もおられますが、堂々と誇りを持って記者に向かって語るご様子は、今でも忘年会のなどの飲み会のたびに語り草になっています。

3. 将来に向けて

「生涯剣道 継続は力なり」を胸に秘め、コロナ禍で稽古環境が厳しい時でも感染防止を徹底して苦しい時期を乗り越え、大好きな剣道の稽古に励んできました。会員の皆さんは、社会人として日々忙しいのはもちろんのことではありますが、中には大病を患いながらも克服・共存しながら自らを鍛えるために時間を作って本会に参加してくださっています。今後も年齢や経験に関係なく健康面が許す限り、誰もが参加でき、生涯を通して剣道を実践する場であり続けられますよう活動してまいりたいと思っています。

今後とも皆様の多大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。これからを担う若い剣士の参加も大歓迎ですので遠慮なくご参加ください。

4. 最後に

このたび、わが若竹会は大阪府剣道連盟のご推挙もあり、大阪府の令和 6 年度「生涯現役スポーツ賞の団体賞」を拝受しましたので、ご報告とともにこれまで支えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（若竹会　会長　倉都滋之）